

教育・文化スポーツ常任委員会 県外行政調査

1 調査日 令和4年11月8日（火）～10日（木）

2 調査の概要

11月8日（火）

（1）栗原市立志波姫中学校（宮城県栗原市）

調査内容：部活動の地域移行の取組について

スポーツ庁の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」において、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることなどが示されている。また、令和4年6月には運動部活動の地域移行に関する提言が行われている。

こうしたことから、部活動について、学校単位から地域単位での活動に変えていくことにより、子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保し、また、学校における働き方改革を推進する必要がある、滋賀県においてもモデル事業を展開しながら、学校事情や地域事情に応じた部活動の在り方を研究しているところである。

志波姫中学校は、総合型地域スポーツクラブであるしわひめスポーツクラブと連携し、外部指導者が部活動とクラブで指導を行うとともに、教職員の働き方改革も進めておられることから、本県の今後の部活動の地域移行の取組に係る委員会審議の参考とするため、調査を行った。



11月9日（水）

（2）宮城県美術館（宮城県仙台市）

調査内容：特色のある教育の取り組みについて

宮城県美術館は、教育普及事業を展示事業と並ぶものとして位置づけている。その特徴の一つとして、県民の自由な創作の場である「創作室」を設け、県民がいつでも作品制作に取り組める環境が保たれ、創作に関する相談や美術に関する質問に対応する専門職員も常駐しており、「開かれた」総合美術館の役割を果たされている。

滋賀県立美術館は、目指すべき美術館の姿を「公園のなかのリビングルーム」「リビングルームのような美術館」とし、あらたまった空間からくつろぎの場所へと、開かれた美術館となるよう取り組んでおり、本県の美術館運営に係る委員会審議の参考とするため、調査を行った。



(3) 富谷市立富谷中学校西成田教室（宮城県富谷市）

調査内容：学校の概要および不登校特例校としての運営状況等について

令和2年度の文部科学省の調査によると、全国の小・中・高等学校等における不登校児童生徒数は約239,000人であり、過去最多となっている。滋賀県においても不登校児童数は増加傾向にある。

また、文部科学省により設置された有識者会議において、今後重点的に実施すべき不登校児童生徒への支援に係る施策の方向性が検討され、その一つとして「不登校特例校設置の推進」が示されている。不登校特例校は教育機会確保法において、国や地方公共団体の努力義務として設置促進が求められているところであるが、現在、滋賀県には設置されていない。

富谷中学校西成田教室は、令和4年4月に開設された東北初の不登校特例校（分教室型）であるため、本県の今後の取組に係る審議の参考とするため、調査を行った。



11月10日（木）

（４）あづま総合運動公園（福島県福島市）

調査内容：施設の概要および運営状況等について

滋賀県では令和7年度の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催を目指し、彦根総合スポーツ公園の整備を行っている。また、滋賀県希望が丘文化公園においても、利用者増を図るためにスポーツゾーンや文化ゾーン、野外活動ゾーンの連携も含んだ活性化の取組が予定されている。

あづま総合運動公園は、平成7年のふくしま国体の主会場であり、さまざまなスポーツ施設を備えるとともに、緑化施設や広場、子供向け施設も備えており、スポーツの推進や県民の健康の増進等に貢献されているため、本県のスポーツの推進、健康増進の取組や希望が丘文化公園の活性化の取組に係る審議の参考とするため、調査を行った。

